

平成26年度 学校評価実施報告書

視点	中期目標	学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価	
			具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等			
1	教育課程	環境緑地科・総合ビジネス科への学科改編を踏まえ、新学習指導要領に基づく新たな学校としての教育課程開発とその定着を図る。すべての科目で思考力・判断力・表現力を育成し、学力向上を図る。	確かな学力を身につけさせる教育課程の開発と生徒の能力を引き出す指導体制の確立	① キャリア教育プログラムの実践 ② 各学科における特色ある学習内容の充実・発展（畜産、食品、食育、環境、園芸、緑化、簿記、外国語、国際交流、情報処理等） ③ きめ細かな進路指導	① 今年度の実践状況 ② 各学科の専門教育の状況と生徒の評価 ⑤ 生徒の進路希望達成状況	○インターンシップを実施し、生徒は進路実現に向けて積極的に参加した。参加人数が少なく、生徒全体への興味・関心は図れていないようである。 ○就職希望者は、昨年度に続き今年度も全員年内に決定し、進学希望者も希望や適性に応じて進学先を決定した。 ○昨年度に引き続き、新学習指導要領に基づく教育課程に関して各自の進路や適性に合わせて学習できるよう改善を行った。	○インターンシップの参加者が農業科だけで人数も減少した。説明会の時期や回数を検討し、参加者が増加するようにしたい。農業科では、今後「日本版フェアリズム」を視野に入れ検討していく必要がある。 ○大学進学を希望する生徒が増加傾向にあり、必要な学力を身に付けさせるために、授業内容の充実が必要がある。一人一人の進路実現につなげるために、担任・進路・専門学科の連携をとっていききたい。 ○大学入試制度改革に向けたカリキュラムの変更および授業展開の工夫が必要である。生徒の進路に合致したカリキュラムを常に念頭に置き考える必要がある。	(保護者) ○教職員の面見が大変よく保護者としては学校を信頼し、安心している。(学校評議員) ○希望があれば、小学校でもインターンシップを受け入れていきたい。 ○十分な取組が行われているが、引き続き改善を進めてほしい。 ○ハローワークでも様々な取組を行っており、活用してほしい。	(学校評価) ○大学入試制度改革に向けた教育課程の変更及び授業展開の工夫が必要である。(改善方策等) ○大学入試制度改革を踏まえ、生徒の進路実現に必要な学力を身に付けさせるために教育課程の変更及び授業内容の充実を行っていく。 ○インターンシップについては、参加人数を増加させるため、説明会の時期や回数等の見直しを行う。
2	生徒指導・支援	組織的な生徒指導体制を確立する。部、生徒会・委員会、農業クラブ、商友会における生徒の主体的な活動の支援を充実させる。	生徒指導・生徒支援体制の充実	① 挨拶の励行 ② 携帯電話の利用マナーの向上 ③ 校内巡回の充実 ④ 自転車の交通ルールとマナー教育の充実 ⑤ 貴重品等の生徒自身による自己管理の啓発 ⑥ 部、生徒会・委員会、農業クラブ、商友会活動の活性化	① 校内での挨拶の状況 ② 携帯電話の利用マナーの状況 ③ 授業・集会等での状況 ④ 自転車におけるマナーの状況 ⑤ 校内における盗難の状況 ⑥ それぞれの活動状況	○挨拶の励行をはじめ、様々なマナーの高いレベルで定着が図られている。頭髮・服装の指導においても、生徒の心に響く生活指導を実践できた。 ○卓球部、バレーボール部、畜産部、ESS部、ワープロ同好会などが好成績を残した。運動部はH26年度は223名と前年に比べて37名増えている。生徒会活動では、クラブ活動費予算ヒアリングなど生徒主体での活動を増やした。 ○商友会組織を整備して2年が経ち、生徒主体の活動ができるようになった。産フェアや地域イベント、課題研究発表会の運営等において活躍した。 ○農業科と商業科との連携から商品開発等を行うことができ、生徒の主体的な活動の支援を行うことができた。	○携帯電話等によるSNSの正しい利用方法の啓発や自転車・バイクにおける交通安全マナーのさらなる向上の指導が必要である。 ○新聞委員会を部活動扱いから委員会へと変更したので、来年度文化部の部活動加入状況が減少することになる。今年度より文化部はH25年度251名からH26年度240名と加入が減少しているので、参加をさらに呼びかけたい。 ○商友会活動に関しては、今後とも生徒自らが商業の行事を企画・運営していけるよう指導していきたい。また、活動内容の充実が今後の課題であると考えている。 ○農業科と商業科との連携に関して、活動が定着できるよう、内容を充実させる必要がある。	(保護者) ○特にSNSの正しい利用の啓発に指導強化をお願いしたい。(学校評議員) ○学校の指導が行き届いており、深刻な生徒指導案件が少ない。カウンセリングの利用が多く、悩みを抱えている生徒が多いことをうかがわせる。 ○発達障害の生徒が増加してきていることが予想され、教職員の研修も必要となってくる。 ○表面に出てこない生徒の状況把握に苦労されていると思われる。	(学校評価) ○挨拶の励行、継続的なマナー指導を行い、安定した成果を上げている。 ○卓球部、バレーボール部、畜産部、ESS部、ワープロ同好会など多くの部活動で優れた結果を残した。 ○農業科・商業科が連携した取組も行うことができた。(改善方策等) ○マナー指導等、引き続き丁寧な生徒指導を行うとともに、SNSの正しい利用方法や自転車・バイクにおける交通安全指導については重点的に行っていく。
3	学習指導・授業改善	授業改善の徹底と評価のあり方の研究を行う。生徒の能力を引き出す指導体制を作る。中学校との相互授業公開の実施と教員研修を定着させる。	授業改善の徹底と評価のあり方の研究	① 目標に準拠した評価法の再構築 ② 生徒が求める学習ニーズの把握と、組織的な授業改善の活性化 ③ 基礎的学習希望生徒に対応する補習指導 ④ 発展的学習希望生徒に対応する補習指導	① 評価方法の検討状況 ② 調査結果と分析の状況、相互の授業研究の定着状況 ③ 教員の対応状況と参加者数と生徒の評価 ④ 教員の対応状況と参加者数と生徒の評価	○生徒の学習ニーズを把握するという観点で授業評価の際にコメントを記載するように生徒に求めたことで、具体的な授業改善の参考になった。他教科の研究授業を見に行く機会を作るのが難しい。基礎的学習内容については各科目で細かく指導をしていた。発展的内容よりも基礎的定着が主流であった。 ○商業科で一部ではあるが、発表やディベート等、今までにない方法で授業を実践できた。現3年生の資格取得状況は、例年よりも多い結果となった。	○研究授業等でまだ他教科の授業を見る機会が作れない状況である。ビデオを使用した研修会を開くことができるように努力する。日々の授業や単元ごとにおいてねらいを明確化する必要がある。今まで以上に基礎力の欠ける生徒への対応を充実させる。生徒の学力の差が大きいため発展的内容を取り扱う工夫が必要である。 ○新しい手法を取り入れた授業改善を組織的に進め、検定から離れた授業展開も視野に入れる必要がある。補習に対する指導体制について生徒の状況に合わせて、今後とも組織的かつ計画的に行う必要がある。	(保護者) ○引き続き改善を図ってほしい。(学校評議員) ○生徒による授業評価の結果が非常に高い。丁寧な指導を行っている成果だと思う。	(学校評価) ○生徒による授業評価や研究授業の方法に改善を加えることで、組織的な授業改善に努めた。(改善方策等) ○授業改善が進んでいる教科の成果を学校全体に普及させ、研究授業の方法をさらに効果的なものに工夫し学校全体で組織的な授業改善に取り組みしていく必要がある。
4	キャリア教育	マナー教育の推進・道德教育の組織的な取組みを実践する。生徒の進路希望を叶えるための指導体制を作る。勤労観・職業観の育成と教員の意識強化の取り組みを行う。	マナー教育の推進	① 基本的なマナー指導 ② 実社会で求められる人物像と必要なスキル(資格ではない)の研究 ③ 育成するために必要な教員像の研究の推進	① 生徒の対応状況 ② 研修の状況	○面接指導を充実させ、基本的なマナーの徹底を図った。様々な進路指導の機会を捉え、実社会で求められる人物像や必要なスキルについて考えさせ、自己の適性の把握に努め進路実現に結びつけた。 ○年間を通して、教員による進路指導の他、LHRや長期休業前の特別時間割、さらには夏休みを利用し、企業の人事担当者や外部講師による生徒向け講演会や面接指導を実施した。	○教職員の進路指導スキル向上における研修時間を創出する必要がある。 ○より実践的なキャリア教育を実施し、全生徒に基本的マナーと実社会で求められる人物像と必要なスキルを身に付けさせる指導を行う必要がある。	(保護者) ○充実した取組を行っており、引き続き内容の充実を図ってほしい。(学校評議員) ○入学時での学力差の問題も予想され、対策を講じる必要がある。	(学校評価) ○学年に応じて計画的な進路指導を実施し、生徒個々の適性を把握することで、進路実現に結びつけた。(改善方策等) 引き続き計画的で丁寧な進路指導を実施するとともに教職員の進路指導スキル向上にも取り組んでいく。
5	地域等連携	学校全体としての取り組みを強化する。	地域と共存した学校づくりの推進	① 共同活動、貢献活動の把握と効果の検証・見直し・実施	① 活動状況と、考察および、全体への周知の状況	○学校へ行く週間を県が指定する期間中の10月に実施することができた。 ○農業科では畜産フェアや敬老の日の酒まんじゅう配布、商業科では相原夢工房の実施や橋本七夕まつりへの参加などを通して地域連携を図ることができた。	○指定期間内に日程を組むことができたが、2日間だけしか計画できなかった。 ○今後も継続して、地域との連携をすすめていく予定である。	(保護者) ○充実した取組を行っており、引き続き内容の充実を図ってほしい。(学校評議員) ○地域に根ざした学校として定着している。 ○小学校と連携した取組はありがたく、継続してほしい。	(学校評価) ○学校へ行く週間のほか、畜産フェア・敬老の日の酒まんじゅう配布・相原夢工房・橋本七夕まつりへの参加などを通して地域連携を図ることができた。(改善方策等) ○地域連携について引き続き内容の充実を図っていく。
6	学校運営・学校管理	全職員が一同に会すことのできる職員室を整備し、学校運営全般に全職員が関わることのできる環境と組織づくりを推進する。	組織的な学校運営への取り組み	① 校内ネットワーク活用の推進と職員のICTスキルアップ研修の実施 ② 平成25年度からの新校内組織の構築・定着	① ネットワーク環境の整備状況と研修の実施状況 ② 新校内組織による機能的な学校運営状況	○X P機の廃棄により校務用PCが絶対的に不足し、前年度より環境が悪化した。研修については適宜実施した。 ○学事情報グループの業務を学習指導グループと進路指導グループとの間で役割を整理して進めることができた。 ○学校運営グループでは、在学生奨学金、人権研修(職員対象 生徒指導関係以外)の業務を新たに行った。心肺蘇生訓練を年間計画に取り入れた。	○現状の職員室の状況では一人一台のPCは必須と考えられるが、到達するには程遠く改善のために思いつく手立てはない。研修については必要が生じた段階で実施する。 ○学事情報グループと専門教育・広報グループとのすり合わせを行う必要もある。 ○外部で行われる人権研修については、全職員が輪番で参加する仕組みが必要。	(保護者) ○特段要望はないが、校内ネットワークの整備は必要だと思う。(学校評議員) ○小中学校ではPCが職員1人のI台配付され、ネットワークも整っている。業務上の必要性もあり改善が期待される。	(学校評価) ○学事情報グループ、学習指導グループ、進路指導グループとの間で役割を整理し、スムーズな業務遂行を行うことができた。(改善方策等) ○ネットワーク環境の整備については、引き続き要望していく必要がある。